



# グローバル人材育成と国際交流の推進にむけた FD・SDに関する調査研究 – 看護系大学全国調査から –

野地有子<sup>1)</sup>, 近藤麻理<sup>2)</sup>, 小寺さやか<sup>3)</sup>, 溝部昌子<sup>4)</sup>, 炭谷大輔<sup>1)</sup>

1)千葉大学大学院看護学研究科 2)東邦大学看護学部  
3)神戸大学大学院保健学研究科 4)国際医療福祉大学福岡看護学部

## 調査研究の背景・目的

看護学教育FDマザーマップの中の「国際交流の推進」に関するFDコンテンツ開発研究の一環である。看護系大学におけるFD・SDに関する現状と課題について、国際交流協定書：MOU(Memorandum of Understanding)の評価の視点から明らかにすることを目的とした。

## 方法

- 対象 全国看護系大学協議会参加校248校（平成28年1月現在）回収79校（31.9%）
- 回答者 対象大学の代表者1名（国際交流担当教員ほか）
- 調査方法 対象校の代表者に文書郵送にて依頼とURLを通知
- 調査内容 1.大学の属性と国際交流委員会, 2.国際交流の実際, 3.MOUの成果評価
- 実施時期 平成28年1月～2月
- 倫理審査 千葉大学大学院看護学研究科論理審査委員会（27-93）

## 結果および考察

参加大学の95%に国際交流を担う組織があり、交流先は延べ32ヶ国あげられた。人的支援があったのは64.6%、単独予算があったのは35.4%であり、補助金等流動的な要素がうかがえた。MOUの締結は54.4%にみられた。学生の学び、共同研究の推進、組織のグローバル化（FDやSD）の推進のために、看護系大学間の継続した情報共有と協力が必要と考える。

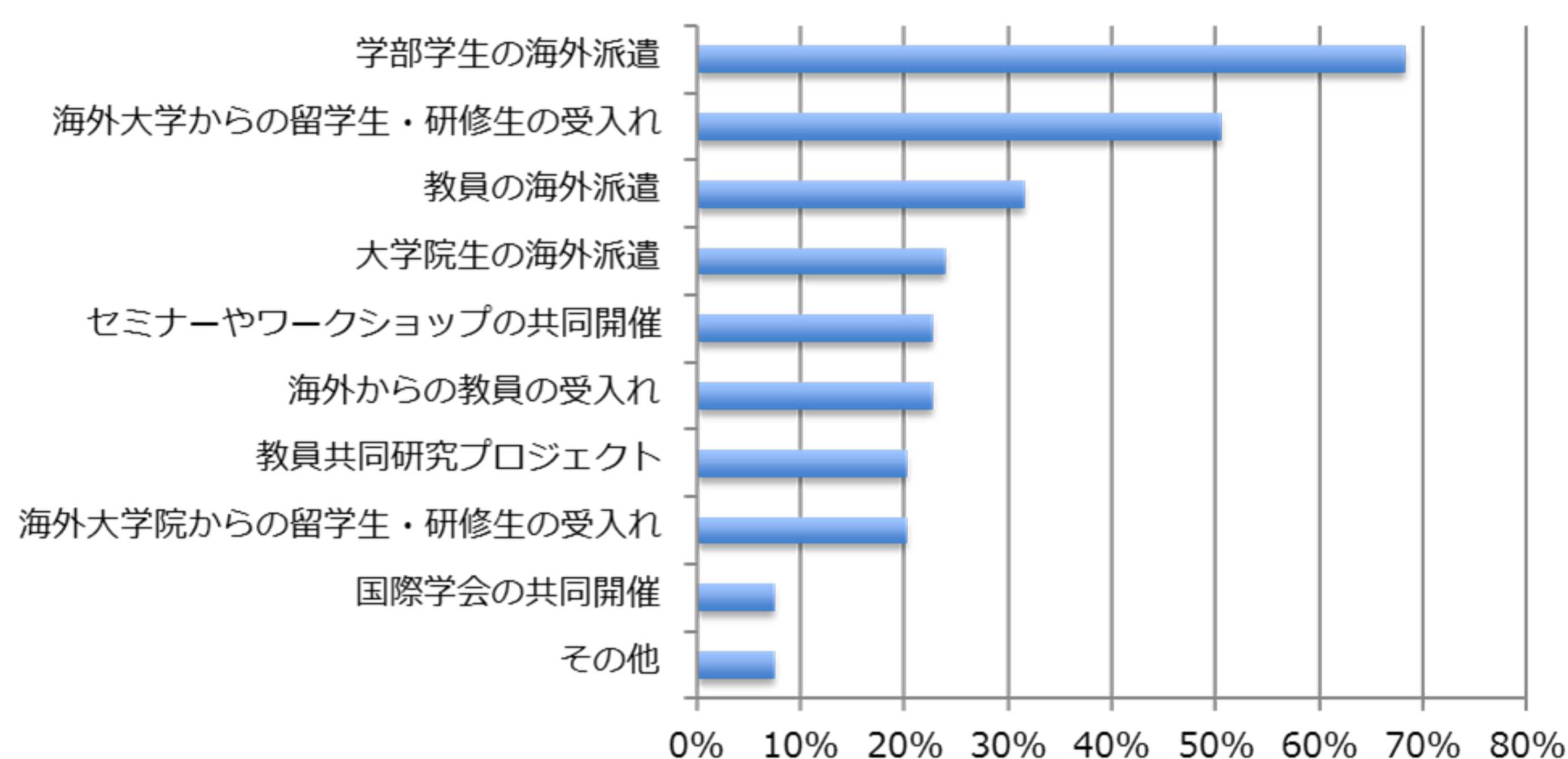


図1 国際交流においてどのような活動を行っていますか